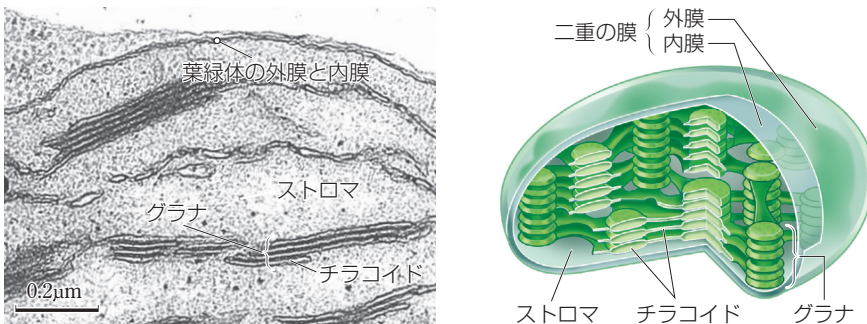


▲図7 ゴルジ体の電子顕微鏡写真(左)と分泌の模式図(右)

分泌が盛んな細胞ではゴルジ体が発達している。植物細胞では小さくて光学顕微鏡では見えにくい。

- 葉緑体● 植物細胞にある光合成を行う細胞小器官で、直径5～10μmの緑色の小粒であり、外膜と内膜に包まれた内部にチラコイドとよばれる扁平な袋状構造をもつ。種子植物やシダ植物の葉緑体では、チラコイドが積み重なってグラナとよばれる構造をつくっている。チラコイドにはクロロフィルとよばれる緑色の光合成色素(⇒p.67)が含まれ、光エネルギーを吸収する反応が行われている。チラコイド以外の部分はストロマとよばれる。ストロマには、二酸化炭素を有機物に変える種々の酵素が含まれている。これらの酵素が、光から吸収したエネルギーによってつくられたATPなどを使って二酸化炭素を有機物に変換する。



▲図8 葉緑体の電子顕微鏡写真(左)と模式図(右)